

原発事故と食の安全（3）

残暑厳しいこのごろですがいかがお過ごしでしょうか。8月の最大電力需要に原発はなくとも火・水力フル稼働で足りるという専門家もいます。福島の新東方向もいまだ見えず、その被害は途方もないものとなっています。7月27日、衆院厚生労働委員会で児玉龍彦教授(東大アイソトープセンター長)は、この事故で広島原爆の29.6個分の放射性物質が外部に放出されたと話されました。環境の汚染は食物の汚染となり、物流によって全国的に広がっています。内部被曝の影響は、取り込まれた放射性物質が24時間、 α -線・ γ -線・ β -線を出し続けているのですから、胸部レントゲンやCT検査と比べる事はできません。

前回にも触れましたが、6月後半から放射性セシウムによるものと思われる症状を訴える方はさらに増えてきています。アレルギー症状で受診される方の約半数は放射性セシウムにもアレルギーを持っているようです。皮疹には、手足口病や金属アレルギーに見られるような特徴があり、汗疹もいつもより痒みが強い、筋肉のだるさや痛み、集中力が無く乱暴になった、不機嫌な事が多い、のどの痛み、咳、鼻血、鼻詰まりが続く、頻尿、腹痛、下痢、食欲不振などの症状です。放射性セシウムに対するアレルギーと思われる赤ちゃんは規制値以下でも汚染された物を全く受け付けなかったり、大人では味覚が消えて味がわからなくなると訴える人もいます。物理的半減期は30年ですが、生物的半減期は0~1才で9日、1~9才で38日、10~30才で70日、31~50才で90日と言われていますが、2~3週間でアレルギー反応が消えた20代の方もいます。次のような対策を取ってもらいました。

- 1, 安全な野菜・果物などカリウムの多いものをたくさん食べる
- 2, 安全かどうか不明なものは、塩水でゆがいて茹で汁を捨てる。魚肉(産地注意)も酢・塩などで水分を抜いてから茹でる・焼くなどする(水分と一緒にセシウムが抜けていき、約30~90%除去できるといわれています)
- 3, ビタミンCなど抗酸化作用のあるものを多く摂る
- 4, 水分を多く摂り排尿を増やす(一般には尿から排出するといわれています)
- 5, 加工品・外食はできるだけ摂らないようにする
- 6, しんどくない程度に運動してよく汗を出し、シャワーで流す(皮膚症状をみますと汗からもよく排出しているようです)

どれが最も効果的だったかはわかりませんが、出来る範囲で取り組まなくてはならないでしょう。もともとアレルギーのある人にとって放射性物質の影響は、より早くより敏感に出やすいのではないかと思います。

全ての人々、特に子供と若者の内部被曝を防ぎ健康と未来を守るため、食の安全に対してより広く深く対応を考えていきたいと思っています。

肥田舜太郎訳

「人間と環境への低レベル放射能の脅威 ~福島原発放射能汚染を考えるために~」

あけび書房

を是非お読み下さい。

鈴木富美